

日本水産工学会ニュースレター

Japanese Society of Fisheries Engineering NEWS LETTER



2020年8月号（通巻第1号）

Contents

- ・ 会長就任挨拶
- ・ 学会誌の電子ジャーナル化について
- ・ 事務局からのお知らせ

会長就任挨拶

木村 暢夫
北海道大学

コロナ禍の中、学術講演会が中止となり、理事会、総会が書面開催となりましたが、なんとか新体制でスタートを切ることができました。これまで、4期8年間に渡り会長を務められました大竹前会長の後、会長職を務める事は非常に重責ではありますが、皆様のご協力を頂きながら努めていきたいと思えます。

最近、会員数の減少から学会の運営状況が大変厳しくなり、財政基盤の改善と健全化に向けワークグループを設け検討してまいりました。この問題は、多くの学会が同様に抱える問題でもあり、研究分野の細分化や人口動態等学会だけの自助努力では解決が難しい問題です。対応策として取り得る選択肢は少なく、電子ジャーナル化による学会誌「水産工学」の出版、郵送に係る経費の削減と学会費の値上げをお謀りし、総会でお認め頂きました。学会費の値上げは会員皆様にご負担をおかけすることになりますが、何とぞご理解いただきたいと思えます。

今後、しばらく続く事が予想されるコロナ禍、学術講演会やシンポジウムの実施形態等新しい学会のあり方が問われています。収束が予期出来ない現在、Web活用等 with コロナ対応を前向きに捉え、早急に学会活動のあり方を検討していきたいと思えますので、ご支援宜しくお願い致します。



学会誌の電子ジャーナル化について

大竹 臣哉

日本水産工学会 前会長理事

2020年(令和2年)、日本水産工学会は発足して30年を迎えます。この機会を利用して、本会も大きく変わります。その一つとして現在学会誌は年3回の発刊を行って、皆様の手元に届けておりましたが、多くの学会が行っているように学会誌を電子ジャーナルとして発行することといたしました。これにより会員がパソコンさえあれば会誌をいつでも読むことができたり講義で利用したりすることが容易になります。また複雑な写真、イラストもデジタル化するために拡大表示などが可能になります。

なお、これまで発刊していた学会誌(27巻～56巻)、学術講演会論文集(1991年～2019年)、そして水産土木(1巻～26巻)は既に電子化されJ-STGAEに掲載されています。

水産工学は、水産業の工学部門を担当するという立場でこれまで進めてまいりました。そのため水産業の中で主流であった漁業のうち、漁船、漁場を探す計測、そしてとってきた魚の加工の技術、冷凍、流通を効率化することを担ってきました。しかし、漁場である海という空間環境を担うことから漁場環境の保全、創造も担う学問を取り入れています。さらに漁場と漁港の一体化を目指し、そこに漁村という地域づくりも加わっています。地域づくりは効率化という視点から少し違和感を覚えます。我が国のように入り江が多く、環境が異なる場合、汎用性を見出すことが学問であるという考えを受け入れがたいためです。しかし、その地域に生活があり、繁栄を求めらば科学が求められます。

このように水産工学は範囲を広めています。単なる水産業の工学部門という考えから水産工学は一つの独立した科学部門であるということを、30年を機に広げていただきたいと期待しています。

電子ジャーナル化は国際的に自分たちの主張が拡散することを意味しています。したがって、会員の皆様にはこれまで以上に活用していただき、世界に自分たちの主張を発信されることを期待しています。

もちろん、IF(インパクトファクター)の大きいジャーナルもあります。どれを利用しても結構ですが、自分たちの学会であり、それを育てるという視点もご検討の中に入れてください。

最後に会員の皆様のご健勝を祈念申し上げます。

事務局からのお知らせ

日本水産工学会 総務委員会

国内主要学会の会員数は大幅に減少しており、国内の大半の学会で会員が減少しているとする記事を目にする機会がございました。当学会も会員数は減少傾向にあり、今後、減収が見込まれます。一方で、前記事で大竹前会長が述べておりましたとおり、水産工学は一つの独立した科学部門であり、当学会は水産工学に関する科学技術の進歩および水産業の振興を図り、学術文化の進展に寄与することで社会にその役割を果たしていく必要があります。今後、当学会を少人数で運営し、会計管理、窓口、情報配信、電子ジャーナル化、会員管理等の会員サービスを維持・提供するためには、省力化・業務のコンパクト化による運営の健全化を図る必要がございます。これまで以上の学会運営・会員サービスの質の向上を目指したいと考えており、役員のボランティアで学会運営を支えるのではなく、学会事務局の業務の一部の外注化を検討しております。

これらを実現するために、先般開催された総会では水産工学の電子ジャーナル化によるコストカット、および、2022年度からの年会費改定が諮られ承認されました。年会費の値上げにつきましては、会員の皆様にご負担をお願いすることになり大変心苦しい胸中ですが、ご理解のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

年会費改定（2022年度年会費より）

正会員	7,000 円
学生会員	2,000 円
機関会員	14,000 円
特別会員	28,000 円 を 1 口とし、2 口以上（56,000 円）

※ 会費前納制につき値上額の納付は 2021 年度からとなります。

※ 機関会員・特別会員にはこれまで通り水産工学 1 冊を配布します（2021 年度までは従来の会費で水産工学を配布します）。

水産工学の電子ジャーナル化（2020年7月・第57巻1号より）

会員（正・学生・機関・特別）の皆様には、水産工学の電子記事を閲覧できるJ-STAGEのID、パスワードを発行いたします。これにより、印刷・発送時間を省いて、水産工学の学术论文をいち早く閲覧できるようになります。J-STAGEのID、パスワードは、毎年度1号発刊時に当該年度の会費納入済会員を対象に郵送で通知する予定です。

また、電子ジャーナル化にともないJ-STAGEには学術記事のみの掲載となります。これまで学会誌として皆様にお知らせしていた会告等の情報については、ニュースレターを発行して情報提供させて頂く予定です。

従来通りの水産工学（印刷冊子）を希望する会員には、注文に応じて出版を行うPrint On Demand方式（POD）にて1冊2,000円で販売します。購入を希望する会員におかれましては、ニュースレターに掲載する申込書に必要事項を記載のうえ事務局に送付（電子メール・郵送いずれも可）してください。